

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で (ヨシエル)」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119 : 7、エペソ人 6 : 5 「真心から」、マタイ 13 : 44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ④ 聖書自体が成就を証しする 真の神の預言：聖書が聖書を解釈  
神の約束の確かさ、成就の確かさ (ご自身の言葉に真実な神)
- ⑥ 究極的に立証される神のすべての言葉

**教会の時代**

☆キリストは甦り後、使徒たちに大宣教命令を下された

**キリストの大宣教命令**

- マルコ 16 : 15-17
- ルカ 24 : 47-49
- ヨハネ 20 : 21
- 使徒の働き 1 : 8
- マタイ 28 : 19-20

**どのように福音宣教をするか**

☆キリスト、再臨に至る全教会時代に亘る「福音宣教」についての指示、教えを語られた  
マタイ 10 章

- ① デザインの一貫性：この世のすべてに反映された神の秩序、原則

**教会史**

☆キリストの昇天後、父なる神の約束の聖霊降臨により「キリストの群れ、教会」が誕生

☆教会の時代の全容 (キリストの再臨までの全教会の姿)

黙示録 2-3 章の七つの教会に預言的に描写

→ 詳細は、『一人で学べるキリストの啓示 「ヨハネの黙示録」の預言』補注 3、6、7

教会の時代の全貌		
時代	特徴	黙示録の教会
時代 I 100CE まで	使徒による初代教会 マタイ 13 章のたとえ ①	エペソ 黙示録 2 : 1-7
時代 II 100-313CE	迫害された教会 マタイ 13 章のたとえ ②	スミルナ 黙示録 2 : 8-11
時代 III 313-590CE	国教化され、帝国の主権を担った教会 マタイ 13 章のたとえ ③	ペルガモ 黙示録 2 : 12-17
時代 IV 590CE ~ 艱難	ローマ教皇権下の教会 マタイ 13 章のたとえ ④	テアテラ 黙示録 2 : 18-29
時代 V 1517CE ~ 艱難	宗教改革後の教会 マタイ 13 章のたとえ ⑤	サルデス 黙示録 3 : 1-6
時代 VI 1730CE ~ 艱難	宣教の教会 マタイ 13 章のたとえ ⑥	フィラデルフィヤ 黙示録 3 : 7-13
時代 VII 1900CE ~ 艱難	背信の教会 マタイ 13 章のたとえ ⑦	ラオデキヤ 黙示録 3 : 14-22
<b>預言的眺望</b> ☆ 黙示録の七つの教会の特徴、マタイ 13 章の七つのたとえに反映 ☆ 背後のデザインの類似性、聖書が「神ご自身の書」であることを立証 ☆ マタイ 13 章：① 3-9 節 種蒔きと四通りの地 ② 24-30 節 毒麦と小麦 ③ 31-32 節 からし種 ④ 33 節 女とパン種 ⑤ 44 節 隠された宝 ⑥ 45-46 節 高価な真珠 ⑦ 47-50 節 地引き網		

## 聖書

## 教会の流れ

—マタイ13章—

## 1. ローマ帝国時代

## 時代Ⅰ 使徒の教会

☆福音宣教開始

1. 敵の妨害、摘まれる福音の「種」
  2. 土台なく、困難、迫害で消滅、実を結ばない
  3. この世の心遣いと富、快樂への誘惑に窒息させられ、実を結ばない
  4. 実を結ぶ木々、異なる生産性
- \*背後に、妨害する者、サタンの使い（「鳥」に象徴）が暗躍

## 時代Ⅱ 迫害された教会

☆キリストの初臨によって「神の国」が地上にもたらされた  
 しかし、この世の「神の国」には、悪、「毒麦」が共存、横行するに任せられる

☆キリスト教、ユダヤ教から決別  
 ☆ローマ帝国によるキリスト者迫害

## 時代Ⅲ この世と結婚した教会

☆偽りの教えは、最初は「からし種」のように小さくても、やがて全キリスト教会をむしばみ、この世にあって悪の王国として栄える

☆キリスト教の国教化で、この世に迎合、世俗化した教会  
 ☆灌木に巣を作る鳥に描写された「不健全な教会の発展」

## ローマ帝国のキリスト教国教化

- ☆312CE、コンスタンティヌス帝、クリスチャンになる
- ☆325CE、ニカイア/ニケーア会議でアタナシウス派を正統、アリウス派を異端と決定
- ☆首都をビザンチウムに遷移、「コンスタンティノープル」と命名
- ☆330CE、「コンスタンティノープル」、ローマ帝国の首都になる
- ☆392CE、テオドシウス帝、キリスト教を国教化
  - 教会は強いられた回心者、新生していない教会員で満ち、支配への野心、異端化、虚栄で特徴づけられた

## 新約聖書の正典化

- ☆二世紀前半から論争、四世紀半ばにほぼ確立
- ☆397年のカルタゴ教会会議で西方教会、正典を正式に承認

## 2. 中世

## 時代Ⅳ 中世の教皇制度下の教会 教皇制度の樹立

## 教皇

☆「父」の意の称号、500CEごろ、ローマの司教に適用

## ペテロ

- ☆ローマ・カトリック教会の伝統では、ペテロが最初の教皇
- ☆しかし、裏づけのない虚構
- ☆ペテロ自身、預言的に警告を残した ペテロ第一5:3

## 教会の大分裂

☆九世紀に東方（ビザンチウム）教会と、西方（ローマ）教会に分裂

☆最初は「パン種」のようにわずかな悪で始まる偽りの教え、やがては粉全体に広がり蔓延する

☆膨れ上がって原形を損なわせるパン種の混入した「違法のいけにえ」に特徴づけられた

主の御旨でない教会制度樹立

☆原始キリスト信仰に多くの慣習、儀式、行事が混入され、成長した教会

## 聖書

## 3. 現代

## 時代Ⅴ 正統派の死と諸教派教会

☆御言葉への立ち返りの画期的な改革後、水面下に沈められた原始キリスト信仰の復興ではなく、  
教会諸教派や異端の出現

☆真の信徒は、キリストにとって「**隠された宝**」

## 時代Ⅵ 主の再臨を待ち望み、宣教する教会の再来

☆最後まで忍耐強く忠実にキリストの御旨を行う真の教会は、再臨の主を受け入れられる  
キリストの花嫁、新しい天地に天から下る新しい都エルサレムを構成する「**真珠**」

## 時代Ⅶ 二十世紀、二十一世紀の背信の教会

☆世の終わりに、キリスト、本物と偽物の「**えり分け**」をされる

\*羊と山羊、小麦と毒麦、賢い娘たちと愚かな娘たちとの最後の選別が下される

## 黙示録の「七つの教会」に起こった異端的動き

## Ⅰ. エペソの教会 黙示録2：1-7

☆「ニコライ派の人々」

1. 「**アンテオケの改宗者ニコラオ**」に従った者たち

\*ステパノといっしょに選ばれた七人の聖霊に満ちた兄弟たちの一人

\*バラム信奉者と同じ間違いを犯した

2. この世に迎合した教会の中の異端的セクト

\*信徒に、偶像崇拜や不道徳を実践する余地、霊的自由が与えられていると、教えた

## Ⅱ. スミルナの教会 2：8-11

☆ヘブル語で「没薬」の意の「スミルナ」

☆この都、ローマと密接な同盟締結

☆敵愾心旺盛で活動的な大ユダヤ人グループ、キリスト信徒を迫害

**没薬**

\*砕かれて香りを放つ植物「スミルナ」、罪人の救いのためのキリストの贖いの死を見事に象徴

☆「**サタンの会衆**」に属する者たち、真のユダヤ人キリスト者（サタンの会衆に属さないユダヤ人）を迫害

☆キリスト者に対する初期の迫害、ユダヤ人によってもたらされた

⇒その結果、教会史の初期に、教会は反ユダヤ主義に陥った

## Ⅲ. ペルガモの教会 2：12-17

☆神学的教理は正しくても、実地、実践的教理が大きく歪められ、神の御旨から離れた教会

☆教会に忍び込んだ二つの偽りの教えは①「**バラムの教え**」と②「**ニコライ派の教え**」

①真偽が混在した不純な教えを象徴 民数記22-31章

\*道徳的墮落、霊的墮落をもたらし、偶像崇拜がイスラエルに蔓延

②すでにエペソの教会に浸透、教会の中に聖職者階級制度を持ちこんだ

☆キリストの教え、忘れ去られ、牧師、神父などの聖職が制度化された マタイ23：8-10

⇒聖職者と平信徒との間に明確な境界が引かれ、教会の教理、規定、聖職者の教えに信徒が従うことを信仰の評価基準とする教会制度確立

## Ⅳ. テアテラの教会 2：18-29

☆聖書では宗教的な教えに「**女**」が関わるのが象徴的に語られている箇所はすべて、偽りの教えや背信に言及

☆偽りの教えや背信、主がとり除くことを御使いに命じられるまで、教会の中に居すわる  
マタイ13：30

## 聖書

## テアテラに対するキリストの非難

1. 「不品行」に象徴される靈的姦淫  
教会がこの世に迎合、結託した結果の産物
2. 「偶像の神」に象徴される偶像崇拜  
十戒の二番目の掟に対する明らかな反逆
3. 悔い改めなければ、「この女」も、関わった者たちも、病、艱難、死にさらされる

## V. サルデスの教会 3:1-6

## ☆「生きているとされているが、実は死んでいる」

- \*ローマから離脱したプロテスタント教会、初期の熱意を失い、冷めた形式主義に陥った
- \*靈に目覚めて、再臨の主に備えよ！ 悔い改め、初期の聖書の教えに立ち返れ！

## VI. フィラデルフィヤの教会 3:7-13

## ☆「サタンの会衆に属する者」

- \*使徒パウロ、ガラテヤの教会の信徒たちに教会内の「かき乱す者たち」、「にせ兄弟たち」、「割礼派の人々」、一自称ユダヤ人たち— に、だまされないようにと警告  
ガラテヤ人1:7、2:4、:12
- \*ガラテヤの教会に発生したわずかな「パン種」、二、三世紀の教会を冒し続けた
- \*ガラテヤ人のパン種とは「律法主義」
- ☆勝利者に、大きな報酬「**聖所の柱**」が約束された
- \*神ご自身が都の神殿となる新しい時代、神と「**勝利を得る者**」との永久の結束を象徴

## VII. ラオデキヤの教会 3:14-22

- ☆軍事的に防御力のなかったラオデキヤ、迎合による戦略法で富み栄えた
- ☆物質的満ち、靈的傲慢に陥り、「**盲目で**」生ける水に欠けたキリスト不在の教会
- ⇒キリスト、ご自分を迎え入れる「**勝利を得る者**」を教会の戸口で待っておられる！

## 七つの教会へのメッセージ

- ☆各々の教会への締めくくりの言葉に置かれた意識的な強調
- \*エペソからペルガモの教会のメッセージは**すでに聞かれた**
- \*テアテラからラオデキヤの教会のメッセージ、今日もまだ耳を開き**聞く者に適用される**

## キリストの非難と裁き

- ☆非難のメッセージは、あくまでも救いが前提
- ☆断定的な裁きはテアテラの教会にだけ下された

## キリスト者が救いを失うことはあり得るか? —ペテロ第二章—

- ☆ペテロ第二2:19-20は、キリスト者が救いを失う可能性を支持しているようにみえる
- \*「**征服される**」、—「**勝利を得る**」の反対—の意を正しく把握する必要
- ☆1節で、ペテロ、偽預言者や偽教師に言及
- ☆4-8節で、ペテロ、敬虔な者たちを誘惑から救い出してくださる「神の救いの力」に言及
- ☆「**水のない泉**」（17節）は、滅びる者たちに対する適切な隠喩
- \*彼らには「内住の御霊」がおられず、それゆえ、救われることができない！
- ☆10-18節は、救われていない者についての議論
- \*神は、敬虔な者をこのような不敬虔な者たちの支配から救うことができる
- ☆19節でペテロ、悪に「**征服され**」、屈従下に置かれた「救われていない人」に言及
- \*彼らには、誘惑に抵抗する「神の霊の力」がない
- ☆20節は「もし」で始まる仮説
- \*救われた者が「**征服される**」ことが起こり得るなら、その終わりは始めよりもっと悪い
- \*罪深い心のゆえに真理から離れ、悪に征服された者たちは決して神の霊を宿していなかった
- \*もし彼らに神が内住しておられたなら、主は、彼らを誘惑から守ってくださったであろう
- ⇒救われた者が救いを失ったり、永久に悪に「**征服される**」ことはあり得ない！